

現代ベトナムの経済問題

ブ　ー　ト　ア　ン

まず最初に、京都大学の東南アジア研究センターに対して、心からの挨拶とお祝いのことばを述べさせて戴きます。日本と東南アジア諸国との間の理解と協力とを一層推進しようとする高貴な目標をお持ちのセンターの成功と幸福を祈る次第であります。

この会合に私を招いていただきまして、誠にありがとうございます。とくに京都大学でこの出席の栄与を与えられた最初のアジア人留学生となったことを喜んでおります。このことに関しては大変感謝しております。また、このセンターに私を招いて下さった私の教授である堀江先生にもお礼を申し上げます。

お求めに応じまして今晚ベトナムの現状を非公式にお話ししたいと思います。前に決められておりましたのは「南ベトナムの現在の経済情勢」というトピックについて話すことだったのですが、今日はそれをもっと一般的に言って、唯「ベトナム」という風な題に変えさせてもらいます。この話しの中で、現在のベトナムの政治的・社会的・経済的状況を若干述べようと思っています。とはいえ、時間の不足と報告資料の不足から、この話しに関して十分準備できていないのは確かなので、この場では、私が知り、理解している事実だけを皆様に提供したいと思います。唯ここで申し上げます見解は、すべて完全に個人的なものです。私の国の政府その他の見解を代表しているものではありません。説明を助けるための統計データは、現在私の利用しうる公式の統計出版物から引用致しました。後で、お尋ねになりたい質問には、どんなことでも喜んでお答えしたいと思います。が、質問に答える権利は保留させていただきます。というのは、私が知らなかったりその資格がなくて、皆様のすべての間に十分満足いくようにお答えできないかも知れませんので。それでも、どうぞ私に質問をなさって、ベトナムのどんな面をあなたがたがお知りになりたいかをお教え下さい。

お話しする順序は、まずベトナムの国土、現代史に

ついて一般的な概説を述べて、次に、社会・文化的背景、現在の政治情勢、経済問題に移っていききたいと思います。

ベトナムは、125,000平方マイルの小さな国で、人口約3千万、その内1千4百万は南ベトナムに、1千6百万は北ベトナムに居住しております。国が分割されたのは1954年以来ですが、この問題に関しては後程ふれたいと思います。南側の土地は農業が盛んで、北側では鉱産資源が豊富です。従って、北部は重工業の地として適しており、南部は軽工業及び農業に適しています。このような自然資源の相互補完的な分布とあいまって、その住民は実際にはあらゆる面からみて等質ですので、発展する為には、ベトナムは絶体に二分されたままで止どまるわけには参りません。不幸にも、住民の意志に反して、外国の影響と外国の政治的イデオロギーとの為、ベトナムは現実では、二つに引き裂かれているのです。

さて第2次世界大戦後の歴史的発展を瞥見しますと、この戦争が突然終ったことは、ベトナムにとって、外国支配から独立するチャンスでした。ベトナム政府が作られ、住民の心からの支持を受けました。しかしこの国の独立の最初の日から、ベトナム指導者層の間に、深刻な内紛があったことは、まことに残念でした。一方では、外国でカッチリと訓練されてきた共産主義者が立ちあがり、そのイデオロギーを熱狂的に宣伝し、やっきになって権力を手中に収めようとしていました。他方、組織も訓練も貧弱な沢山のナショナリストのグループが存在していました。そうですから、共産主義者は独立ベトナムの最初の政府の機構の中へたやすく浸透していき、続いてそれを支配してしまいました。まもなくそれは完全な共産主義政府となりましたが、彼らは人民をたぶらかす為、巧みにナショナリズムの仮面をつけていたのです。共産主義者に対する強い大衆的反撥はあったのですが、丁度その頃生じてきたフランスの植民地主義者の侵略

の危険の方が共産主義の危険性よりも大きいというように人民が目覚めるにつれて、その動きはどんどん弱くなってしまいました。

第2次大戦後のベトナムにおけるフランス侵略について若干お話しせねばなりません。日本軍が降服して2、3週間後には、すでに武備の整ったフランス軍の5、6箇師団が、最新式武器、装備、飛行機、戦艦、戦車を有して、しかもヤルタ・ポツダム会談の協定に従って降服した日本軍隊を武装解除させるために南ベトナムにいた英国軍の援助を得ながら、ベトナムの南部に上陸しました。フランスの悪意ある意図は、ベトナムを再占領して再びその植民地にすることでした。フランス植民地主義者とベトナム人民の間の本当の戦争が始まったのです。ベトナム人民は直ちに統一され、ひじょうに原始的で貧弱な武器装備で勇敢にフランスと戦いました。共産主義者は巧みにこの状況を利用して政府に対する支配力を強め、ナショナリストグループの反対を他所に向けてしまったのです。後ほど共産主義者の支配するベトナム政府と、共産主義者の首相 Thorez の下のフランス政府との間に臨時休戦協定が作りあげられ、フランス軍が北部、中部のベトナムに駐屯することを許したのです。再びベトナム、フランス間の全面的な戦争が1946年12月に起りました。この戦いで荒廃は続き、かつ共産主義勢力は中国大陆における中国共産党の勝利によって一層強められました。中共からの供給ルートが確立されたのです。フランスは、すぐに、その強い植民主義的な野望にも拘らず、ベトナムを再占領する希望が消えてしまったように判断しました。彼らは、西欧諸国からの援助と支持を得るべく、自分達は植民地戦争をやっているのではなく、反共産主義者の戦いをしているのだと声高く主張していました。そのような助力を得る事には成功しましたが戦争に勝つことには失敗しました。というのは、彼らは共産主義者だけではなく非共産主義者のベトナム・ナショナリストとも立ち向かっているのだという事実を見過していたわけです。ベトナム人は過去にフランス植民地主義者にひどい目に会いすぎていたのです。このように共産主義者が成功した大きな理由は、ベトナムにおけるフランス植民地主義者の存在であったのです。

ディエン・ビエン・フー駐屯地での敗戦のため、フランスは共産主義者と交渉せざるを得なくなり、

1954年7月21日のジュネーブ講和によってベトナムは分割されることになりました。北部は共産主義者によって、南部はフランス、後にはナショナリスト政府によって支配されました。ベトナム人民はすべて祖国の分割を嫌い、南のナショナリスト政府は強く抗議しましたが、ただ共産主義者だけは、それから多くのものを得ることができると信じていたので、だまして是認したのです。この悲惨な成り行きの結果、約100万人の被難民が北から南へ移っていったのに対し、僅か数千人のものが北へ移っていきました。

1954年の末以来、ベトナムは政治的のみならず経済的にも二分されてしまいました。この両地域の間で交易とかその他の公然たる交通は全然ありませんでした。お互いに血と共通の社会・文化的背景によって結びつけられた同胞であるにも拘らず、唯単に政治的イデオロギーの相違のために、住民はお互いに憎み合うことを教えられています。政治的問題には後でもう一度述べさせてもらいますが、ここでベトナム人民の社会・文化的な面について数言ふれたいと思います。

ベトナムの住民は蒙古人種に属し、その祖先は2～3000年前に、中国中部から南部へと移動してきたものと信じられていました。中国の文化はベトナム文化に非常に大きな力を及ぼしてきました。儒教、道教、大乘仏教の世界観がすべて中国から来て、そしてベトナム人の思考に深く浸透したのです。ベトナムのことばは、100年程前までは、中国字で書き記されていました。しかしながら、現在3,000万の人によって話されるこのことばは、中国語とはまったく異なったものです。今世紀の始めにベトナム語はローマ字を採用し、この国語のローマ字化が成功したことは人民の教育に大いに役立ちました。この新しい書きことばは、古いのを習うよりはずっと易しいものです。この新機軸のお陰で、ベトナムでは読み書きの能力を持つものがかなり高率で、ベトナム語がすべての教育段階で教えられています。

中国から来た世界観のうち、儒教と大乘仏教とが最も大きなインパクトをベトナム人の生活に与えています。日本におけると同様にこの両者は、一人の人間の中に隠やかに共存しています。中国、日本、朝鮮、ベトナムの諸国民は基本的な社会文化構造では、さしたる相違がないと言って正しいかと思います。

ベトナムの主な宗教は仏教—大部分は大乘教—とキ

リスト教—大部分はカトリック—です。前者は半数以上の人々によって信奉され、後者は10%以下の人々が信奉しています。実質上イスラム教徒、ヒンズー教徒はベトナムにいません。祖先崇拜は、仏教、カトリック教など宗教に無関係に、もっとも普通に行なわれています。この擬似宗教は、儒教と結びついて、家族を社会の基本的単位として強化し国家を超家族とする傾向があります。このような考え方を心に持っているものだから、ベトナム人は自分達の超家族の分裂に耐えることができないのです。

彼らは基本的には国土が再び統一されることを熱烈に希求していますが、近い将来における平和的再統一への見通しは非常に暗たんたるものがあります。小さな国の運命はもはやその住民だけによって決定されなくなっています。ベトナムは英国、ソ連、フランス、中共の決定によって二つの部分に断絶せられているのです。私は東西両陣営の緊張がある限りベトナムは再統一されないのではないかと考えています。直接的、間接的に、各々の部分はこの陣営のいずれかの強い影響を受けています。

再統一問題はイデオロギーの相違が大きくなればなる程困難となってまいしょう。彼らの政治的イデオロギーがどうであろうと、両政府が国民的関心を第一にせぬ限り、この国は分割され低開発のままで止どまるに違いありません。これに関しては、私の意見では、共産主義者がもっとも責められるべきで、その理由は彼らはこの国の支配を独占し、しばしばこの国の利害と反対の方に向う国際共産主義のイデオロギーを宣伝することのみに興味をもっているからです。

さらに言えば、コミュニストが南ベトナムを侵略しようとする絶えざる試みは、まさしくジュネーブ講和の違反であり、平和的再統一の可能性への妨害なのです。コミュニストが北ベトナムから南ベトナムに対して行なうゲリラ戦は実に国内戦のもっとも悲惨な非人間的な面であります。同胞達は敵とされ、お互いに殺しあうのです。南側が人民の為に建設しようとしたことは、コミュニストの狂信者達によって無分別に破壊されています。もしこのような活動が続くなら、この国は貧困と後進性へと一層落ちこんでいくでしょう。

情報の不足から、私は北ベトナムで何が起きているのかは存じません。従ってここで述べることができ

るのは南ベトナムにおける若干の現状だけでありませぬ。

今日南ベトナムがもっとも緊要とする仕事は、破壊的なコミュニストのゲリラに侵された地域の平定です。必然的に、国富の多大の量が軍事的消費に使われざるを得ませんでした。我々は、共産主義者がこの国の安全をおびやかす限り、このような非生産的出費を避けられません。防衛費は国家予算の最高額を占めており、1958年43%、1959年39%、1960年38%、1961年50%となっております。この割合はこの2年でより増えたようです。

このように戦争で分裂した国では、国民は未来に対して非常に危険で不安定に感じるので、個人個人があえて長期的産業投資をやってやろうというようなことはありません。国は低開発のままの状態に止どまり、進歩は殆どありませんでした。すべては共産主義者によって引き起こされたゲリラ戦によるものなのです。

ベトナムは多くの点から低開発国です。その1人当り国民所得は非常に低く、官庁統計によれば1956年度では約137ドルです。但しこの数はベトナムの通貨流通額を過大評価した公式為替相場によって大部つり上げられています。私の思うには約100ドル前後ではないかと思います。総国内資本形成率は1957年で総国内生産のたった5.8%でしたが、その前年には7.7%です。この比率はまったくひくすぎて国を発展に導くなどということはできません。これは、部分的には総国内生産の殆ど10%を食いつくしてしまう軍事的な甚だしい消費高によるものです。

これらに加わうるに、ベトナム発展にとって深刻な障害が幾つかあります。

(1) ベトナムでは年間約1.8%というかなり高率の人口増加があります。出産率は2.4%、死亡率は約0.6%です。ベトナムの人口増加は、現在の状態では、(もしこれを1人当りの国民所得のレベルで測れば)この国の発展率を緩慢にしていこう傾向があります。幸いにして、ベトナムは、多くの未耕地があるので、人口増加による食糧不足に悩まされることはないのです。可耕地は現在全土地面積の1/5を占めていて、土地を更に集約的及至粗放的に耕作することによって食糧増産の可能性は多いのです。

(2) 労働力は全人口の約40%と推定されています。この割り合いは恐らく高すぎるのですが、これは、子

供の労働があることと不完全就業の労働者を含んでいることによるものです。労働生産率は、原始的な生産技術と資本投下の不足から、非常に低く、労働の失業状態と失業問題も労働問題も存在しています。

(3) 80%近くの労働力は農業に従事し、総国民生産の約20%のみを生みだすにすぎないのです。中心となる農産物は米とゴムです。稲田の生産率は最近改良され、現在1ヘクタール当り1.6ないし2.4仏トンの稲の収穫です。現在の米の全生産高は戦前の水準よりずっと高いのですが、米の輸出高は1940年の水準の約1/4にすぎません。この違いは、人口増加とくに北ベトナムからの被難民や、1956年の230kgから1961年の327kgに上がった1人当り消費量の増加などの要因によるものです。

(4) 外国貿易に関しては、まったく失望させるものがあります。巨大な輸入超過は毎年生じています。即ち1956年には324百万ドル、1957年184百万ドル、1958年148百万ドル、1959年169百万ドル、1960年154百万ドルです。輸出はただ農業生産物だけからなり、米について自然ゴムが外貨獲得に役立っています。農産物の輸出は一般に国際価格の予測できない変動と国際市場の激しい競争に悩まされています。自然ゴムの需要は、人工ゴムの発展によってかなり減少してきました。加わうるに、すべてのゴム生産国が木を新しく植えて生産高を増す傾向にあり、これが競争を激化させ価格水準を低下させています。米輸出国としての位置もまったく面白くないものがあります。ベトナムが今年良い収穫を上げると、タイ、ビルマ、カンボジアその他の国も又良い収穫を上げているということが多分に起りうるのです。従って、輸出米の量は増加するかも知れませんが全収入は、価格の低落によって、比例して上がるということはないのです。その結果、輸出収益は常に小なのです。大部分の工業製品は質量共に未だ輸出しうる水準には達していません。輸入の面では、その必要性は非常に大であります。ベトナムはその工業化の為の機械設備の輸入を必要とし、新しくうちたてた工業の為に半製品ないしは原料を必要とし、そして布などの日常必需品さえも必要としています。

このような大きな輸入超過はどうしておこりえたの

でしょうか。この欠損を覆うのは外国の援助で、大部分はアメリカの補助金と貸付金で、1956年から1960年までの各年間額は、279ドル、151ドル、153ドル、168ドル、179ドルです。これらの外国援助なしでは、上述のような多大の輸入は許されえないかも知れないのです。かくてベトナムはこれらの援助を使って多くの発展計画を遂行して行くことができたのです。

ベトナムはこの巨額の外国援助によってどれだけの進歩をとげたのでしょうか。私にはわかりません。しかしベトナムがこれらの援助基金を出きるだけ速やかな工業化と低開発状態から抜けでることにうまく使っていく方が良いのだということは確信しています。これらを消費とか非生産的の計画に浪費してしまうならば、この国は、アメリカの援助におんぶしすぎて、援助が突然断ち切られた場合に生き残られないことになりましょう。

経済においては、軽いインフレだけがあって、生計に多くの費用がかからないでうまく行っています。しかしながら、民間部門への投資誘因は極めて弱いのです。これは戦争による市場の狭小化の不安定さによるものです。南ベトナム政府は、種々の方法で工業への投資を奨励し、政府自身もすべての主要事業（道路橋梁、学校その他の建設）に資本を投下しており、民間人との共同資本の投機さえも行なってきました。多くの企てがこの計画のもとに生まれましたが、しかしまだまだ不十分な状態です。長期発展計画は政治的不安定の状態と戦争の不断の脅威のもとではうまく進んでいくはずがありません。

要約すれば、南ベトナムの経済的発展は大きく進展しなかったのです。主要な障害は、大部分戦争の脅威、未来の不確実さ、政治的不安定等々によって生じたものです。これらの障害が取り除かれれば、国内市場は広げられ、工業的思わくへの投資は企業家や大資本金を支配する人にとって一層魅力的なものになり、外国資本は一層たやすく借り入れうるでしょう。

このお話を結ぶにあたって、一言いわせて戴きますと、ベトナム国民はこの国の平和と再統一を望むだけであり、その結果彼らはベトナムの進歩と繁栄の為に働き得ようになるでしょう。